

平成21年度事業状況報告

(事業状況報告の内容)

1. 奨学金の給付

(1) 本年度の給付対象者及び給付額

大学院生 20名(うち新規 10名)、1人当り月額25,000円

(2) 事業の概要

① 奨学生の採用

本年度も前年同様、次の応募要項をもって募集を行ったところ、応募者は14名であった。選考委員会において、そのうち10名を奨学生として決定した。

募集要領 応募資格 日本国内の建築及びその関連学科を専攻する大学院修士課程第1学年在学者

採用人数 10名

奨学金 大学院修士課程終了までの2年間

提出書類 在学証明書、成績証明書、建築教官の推薦状、大学院における研究テーマの概要等

審査 選考委員会において決定した。

② 奨学金の給付

本年度の奨学生は、前年度採用分10名を加え、総数20名である。

奨学金は、月額25,000円を6カ月分まとめて、7月と1月に支給した。

2008年度奨学生 (10名) 別紙の通り

2009年度奨学生 (10名) 別紙の通り

2. 奨学生セミナーの開催

(1) 奨学生の指導のための研修会である。

開催 年2回(春、冬)

一回あたり参加人数 20名

一回あたり諸費用 約450,000円

(2) 事業の概要

建築家の平田晃久氏と宮本佳明氏を講師に迎え、新旧奨学生参加のもとにセミナーを開催した。

開催日 平成21. 7. 9 建築家 平田晃久氏

平成22. 1. 18 建築家 宮本佳明氏

3. 研究助成金の支給

平成21年度は、下記の通り500,000円の研究助成金を支給した。

平成22年3月3日 皆川拓(吉岡文庫シンクタンク・リサーチャ研究)

500,000円

4. 優秀作品の表彰及び講演会

(1) 新建築住宅設計競技2009の開催

当財団及び新建築社共同主催による本年度新建築住宅設計競技は、下記課題で行われた。

課題 住宅、映画の世紀を経験して

The Residence – From Our Having Lived the Movie Century

最初の映画が上映されたのは、今から100年余り前のこと。以来、映画は飛躍的な勢いで発展した。20世紀を通して、世界各国で、無数の映画が撮られ、また無数の人びとが映画館に足を運んだ。今では、映画は、私たちの日常的現実の一部と言ってもよいだろう。映画以前と映画以降で、私たちがものを捉え、ものを考えるそのやり方は、はっきりと異なるものとなってしまった。

しかし、私たちの認識のそうした変化は、まだ十分に、建築のあり方を変えてしまっていない。今でも、建築を伝える媒体は、静的なイメージつまり写真が主役である。映画、あるいは動的なイメージによって培われた思想や感覚によって徹底的に考案された建築であっても、流通するのは静的なイメージである。このことが、起こるべき変化を妨げるひとつの原因になっているのかもしれない。

もっとも、そんなブレーキも、インターネットで扱われる容量の増大化と共に、今や霧散しようとしている。だとすれば、既に映画の世紀を経験し、そのことを基盤とした私たちの認識や思考の仕方にふさわしい建築のあり方が、もう間もなく、出現しはじめるのかもしれない。動的なイメージとして初めて捉えられる建築？ 図式を超えた建築？ 物語としての建築？ 映画の世紀を経験して、私たちの前にどんな建築が可能なのだろうか？ そうした問いに答える住宅案を期待している。

(青木淳)

締切日 2009年9月16日

審査委員 青木淳

入選発表、総評 月刊『新建築』誌2009年12月号

本設計競技において、312点、そのうち海外からは34カ国から155点の応募作品が寄せられた。そのうちの入賞作品に対して表彰を行った。

入賞者：

1等(1組, 賞金60万円)

Julian King Christina Lyons(アメリカ)

2等(1組, 賞金40万円)

高山祐毅(日本)

3等(1組, 賞金20万円)

Abre Etteh(イギリス)

佳作(6組, 賞金各5万円)

CJ Lim with Pascal Bronner, Mika Zacharias, Julia Chen(イギリス)

George Sneghkin, Sergey Aksenov, Ilya Spiridonov(ロシア)

Anthony Wong Chun Kit, Davy Ku Ching To, Tony Lau Wai kin(香港)

新宮敬章 香川翔勲(日本)

木野史朗 大石悠平 大塚隆光(日本)

Kumiko Hirayama(イギリス)

(2) 新建築賞の表彰及び受賞者による講演会

(第25回新建築賞の表彰)

新建築賞は、住宅作品を通して建築設計の新たな展開に大きな可能性を感じさせる新人の奨励のため、毎年、その作品の設計者を表彰している。

第25回となる今回は、『新建築住宅特集』2008年1月号から12月号までの間に掲載された作品及び、『新建築』誌に掲載された住宅に関連した作品が対象となった。

各審査員があらかじめ推薦作品を提示し、座談会形式の最終審査を経て選出、その結果、下記の2作品の入選が決定した。

審査座談会と受賞作品は『新建築住宅特集』2009年3月号に掲載している。

受賞作品 若松均 「Hi-ROOMS 明大前 A/路線際の長屋」

武井誠+鍋島千恵 「カタガラスの家」

審査員 北山恒、貝島桃代

(第25回新建築賞受賞者による講演会)

第25回新建築賞受賞者による講演会を、表彰式と合わせて、平成21年4月13日にリビングデザインセンターOZONEにて開催した。

平成21年4月13日 会場：リビングデザインセンターOZONE

入場者数：100名

講師 (1) 若松均 受賞作品 「Hi-ROOMS 明大前 A/路線際の長屋」

(2) 武井誠+鍋島千恵 受賞作品 「カタガラスの家」

協力 (株)新建築社

5. 講演会の実施

平成21年度の講演会は、開催を希望する協力会社等がなかったため見送りとなった。

(株式保有会社の概要)

- ① 名称 株式会社 新建築社
- ② 所在地 東京都文京区湯島2-31-2
- ③ 資本金 10,000,000円
- ④ 事業内容 建築総合専門誌『新建築』、『新建築住宅特集』等を出版及び建築設計競技、講演会等の開催
- ⑤ 役員の数 4名
代表者氏名 吉田信之
- ⑥ 従業員数 約50名
- ⑦ 株式数 35,300株(全株式が優先配当無議決権株式である。)
保有割合 44.1%
- ⑧ 保有理由 株式会社新建築社からの寄付
- ⑨ 入手日 昭和42年3月
- ⑩ 株式保有会社との関係

株式会社新建築社の創始者である吉岡保五郎の資産の寄付により当財団が設立された。当該会社に当財団の事務事業を委任。当財団の事務所を無償賃貸。当財団の理事に当該会社の代表取締役が就任。その他人事、資金又は取引については無関係。